

特別支援教育実践マニュアル

<No. 23>

～ 個に応じたきめ細かな指導・支援の土台は安心できる学級づくり～

「個に応じたきめ細かな指導・支援」は、特別な教育的支援を必要とする子どもだけでなく、すべての子どもにとって大切な視点です。

それは、一人一人の子どもを見つめることからスタートします。そして、その土台となるのが、一人一人が大切にされる学級づくりです。個々の特性に気がつき、繊細で温かい教師のまなざしと配慮は、安心できる学級を作ります。

今回のマニュアルでは、すべての子どもたちにとって必要な「安心できる学級づくり」のチェックリストを紹介します。このチェックリストを活用して、今年度のまとめと新年度の準備を進めましょう。

○個に応じた指導・支援の必要性

○安心できる学級づくりチェックリスト

○新年度に向けた取組

○活用してみよう



個に応じた指導・支援の必要性

平成29年3月に公示された新しい学習指導要領の各教科の解説には、各教科等において学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意し、個々の児童生徒の困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫し、個に応じた様々な手立てを検討し、指導に当たっていくことが示されました。例えば、小学校国語科における配慮としては、例として次のようなことが示されています。

〈小学校国語科の配慮例〉

文章を目で追いながら音読することが困難な場合〔困難さ〕には、自分がどこを読むのかが分かるように〔指導上の工夫の意図〕教科書の文を指等で押さえながら読むよう促すこと、行間を空けるために拡大コピーをしたものを用意すること、語のまとまりや区切りが分かるように分かち書きされたものを用意すること、読む部分だけが見える自助具（スリット等）を活用することなどの配慮をする〔個に応じた様々な手立て〕。



このように、子どもがどのようなことに困っていて、なぜそのような状況になっているのか周りの大人が理解して支援することが大切です。「できた」経験を重ねることで、自己肯定感が高まり、そこから自分で「やってみたい」という主体的な意欲につながっていきます。

さりげなく困っている人に手を差し伸べる先生の姿は、お互いの個性を尊重し、協力できる子どもたちのモデルになります！

安心できる学級づくりチェックリスト

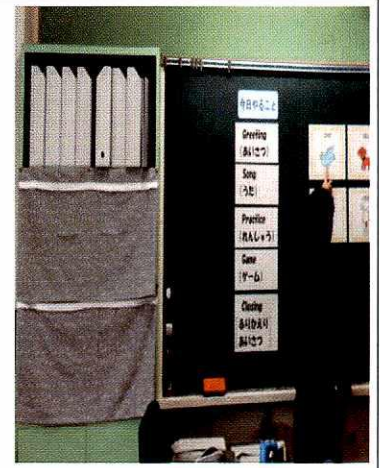
教師の姿勢

- 日々の生活の中で学級目標を踏まえた具体的な「めあて」を設定している。
- 学級のルールを明確に示している。
- 「ルールを守ろうとする姿」を認め、集団の一員であることとルールの大切さを意識させている。
- 「間違っても大丈夫」ということをいつも伝えている。
- 叱責や注意より「どうすればよいか」と適切な行動を簡潔に説明している。
- 個々の子どもの良い面、得意なところを、活動に意識して生かしている。
- 子どもの努力を見逃さず認め、励ましている。
- 子ども同士が教え合ったり、助け合ったりする場面を取り入れている。
- 一人一人の良さや努力の過程が認められる場の設定に努めている。
- 「ありがとう」「助かったよ」と子どもに感謝の気持ちを伝えている。
- 困難さのある子どもへの対応のよいモデルになっている。
- 表現が豊か（声・表情・動作等）で、温かい雰囲気をはかっている。



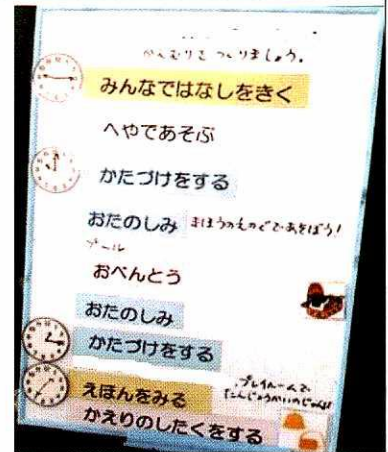
教室環境

- 子どもの視界に入る棚は目隠しをし、教室前面には不要な掲示物をなくしている。
- 黒板がきれいで、不要なプリントを貼らず、全面が使えるようにしている。
- 壊れた物や、はがれかけた掲示物を放置しないようにしている。
- 定期的に机やロッカーの中を整理させている。
(道具箱のしまい方を写真や絵で明示)
- 廊下のフックやロッカー等、持ち物を整理しやすいように工夫している。
- 備品や掲示物、外の景色や音等が過度の刺激にならないように座席を配慮している。



ルールの視覚化

- 1日の予定が簡潔に掲示してある。
- 声の大きさの見本を視覚的(声のものさし)に示している。
- ノートやプリント類の提出場所を提示している。
- 「発表の仕方」、「話す」、「聞く」のルールを掲示している。
- よい姿勢の手本を視覚的に示している。
- 次の授業や活動で準備する物、移動先等の指示は視覚的に掲示している。



わかる授業づくり

- 教員の顔に注目させてから指示を出すように心がけている。
- 一斉指示の理解が困難な子どもには個別に指示を与えている。
- 子どもが自分の考えを書く時間を確保している。
- 文字の大きさや配列を意識し、最後列からも見えやすい板書や掲示にしている。
- 「めあて」を青チョーク、「まとめ」を赤チョークで囲む等、板書のルールを決めている。
- 時計やタイマーを使い、活動時間や終了時刻を明確にしている。
- 学習内容に応じた形態(個人・ペア・グループ・全体)を取り入れている。



校(園)内体制

- 管理職のリーダーシップのもと、定期的に校(園)内委員会を開催している。
- 教員同士が感じている「困難さ」を率直に話し合える温かい雰囲気がある。
- 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」において、補助教員・支援員の役割を明記している。
- 校(園)内委員会と学年会などで、特別な支援を必要とする子どもの実態把握ができています。
- 関係機関等と連携する際の手続きについて、全教職員が共通理解している。

新年度に向けた取組

4月から新年度がスタートします。子どもたちは、新しい学年、新しい環境に変わることへの期待が大きい反面、不安もあります。何事もスタートが肝心です。各学年・学級で行ってきた指導・支援の引継ぎが、新年度のスタートに向けてとても重要になります。「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の見直しを行い、スムーズなスタートが切れるように、校内及び進学先にしっかりと引継ぎを行いましょう。

本年度中に行うこと

- ・担任は、保護者との面談で、合理的配慮等を含めた「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の内容を確認する。
- ・校（園）内委員会・学年会等で、保護者と確認した内容について、情報の共有をする。



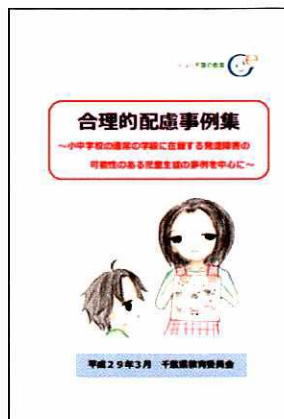
新年度に行うこと

- ・新担任は、引継ぎ資料を受け取り、今までの指導・支援内容を確認する。
- ・保護者を交えて、前年度に見直した「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に基づく支援と手だてを確認する。
- ・校（園）内委員会・学年会等で支援内容や手立てについて、情報の共有をする。

活用してみよう！



冊子①



冊子②

千葉県では、支援や合理的配慮について、『ユニバーサルデザインの考え方に学ぶ どの子ども「わかる」「できる」をめざす支援の工夫 ヒント集』〔冊子①〕や『合理的配慮事例集～小中学校の通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある児童生徒の事例を中心に～（平成29年3月）』〔冊子②〕を作成しています。

冊子①については千葉県総合教育センター、冊子②については、千葉県教育委員会の各ホームページから、それぞれ閲覧・ダウンロードができます。

ぜひ、ご活用ください。



教育研究センター
浦安市富岡 1-1-1 (富岡小学校内)
381-7960・381-7961

まなびサポート相談室
浦安市弁天 3-1-1 (見明川中学校内)
390-5204